

令和2年度 第1回玉野市総合教育会議 議事概要

総合政策課作成

日時 令和2年10月20日（火）14:30～15:30 玉野市役所3階 特別会議室

出席者	【構成員】	市長	黒田 晋
		教育長	妹尾 均
		教育長職務代理者	妹尾 恵美
		教育委員	野田 洋二
		教育委員	加藤 正枝
		教育委員	太宰 実千代

【事務局】 教育次長、教育総務課長、学校教育課長、就学前教育課長、社会教育課長、学校教育課長補佐、教育総務課主幹、政策財政部長、総合政策課長、総合政策課長補佐、総合政策課主幹

1. 協議事項

- (1) コロナ禍における教育活動の状況等について
- (2) 今後の重要な教育行政課題について
- (3) その他

2. 議事概要

市長 議事にある「(1) コロナ禍における教育活動の状況等について」に関して、教育委員会より説明をお願いしたい。

学校教育課長 臨時休業については、小中学校及び幼稚園では3月2日から5月17日まで、高等学校では3月2日から5月31日まで実施した。なお、市立高等学校の休業については、県立高校に準じている。休業により義務教育段階では16日間の授業日を失ったため、1学期を8月7日まで延長することで授業時間数を確保した。高等学校では1学期の8月7日までの延長に加えて、2学期を8月17日から始業した。これらの取組により失われた授業日数は解消した。

各学校には感染拡大地域ではないという前提の中、恐れすぎず、3密を回避しながらできる限り教育実践を行うよう指示しており、学習発表会や合唱コンクールなど各種行事も、中止ではなく実施方法の工夫により対応していく。

学校行事及び学校の教育に関する決定権は、基本的には各学校長が持っているが、運動会、修学旅行など大きな行事については、市内で同じ取扱が求められることから、校長会においてベクトル合わせを行い、市内の小・中学校の修学旅行は日帰り旅行に統一した。（行き先は会議資料P.5～6参照）

今のところ学校内で感染者は発生していないが、今後の発生時の対応については「学校名・学年など非公表、校種のみ公表」の方針を市内全校で統一する。その他の取組については、会議資料P.3～4のとおり。なお、感染不安に関連した欠席者については、再開当初は市内学校で数名確認していたが、現在はいない。

次に、休業期間中の放課後児童クラブの開所については、文科省の意向を遵守して「学校では児童の預かりを行わず、あくまで児童クラブ主体で開所する対応」を徹底した。また、国の示したルールの中で各校の非常勤講師や学校サポートスタッフを社会福祉協議会の指導員として児童クラブの運営に協力した。

就学前教育課長

次に、就学前教育保育における休業等の対応については、幼稚園及びこども園幼稚園部は、小中学校に準じて3月～5月に休業を実施。また、保育園及びこども園保育部は、自粛要請を出して、応じてくれた家庭に対して保育料や給食費の日割り返金を行った。

園児の体調管理は、各家庭で行う検温の報告に加えて、検温カードを忘れた園児への対応として非接触型の体温計による検温を実施した。その他、こまめな換気の徹底や保育室への網戸の設置など3密対策を順次進めている。運動会は保護者の人数制限や来賓なし等例年と違うやり方で全園で実施した。(10月3日又は10日)

教育総務課長

次に、GIGAスクール構想については、当初国からはR5年度までに完了するロードマップが示されていたが、コロナの影響による臨時休業を契機に遠隔授業を可能にする環境整備の重要性が増したことにより、今年度中に前倒しになった。具体的な整備内容は会議資料P.11のとおり。いずれも年度内の完了に向けて順調に進んでいる。

学校教育課長

GIGAスクール構想に関連して市教委ではロードマップを作成した。内容は会議資料P.12のとおり。県教委ではR5年度からの本格稼働を目指しているが、市教委ではR4年度から本格運用できるように管理職研修や担当者研修を始め、各校で校内研修などを実施できるように準備を進めている。また、会議資料P.13のガイドブックを作成し、知識がない人でもこれを見たら理解できる内容とする等GIGAスクール構想の先進例として県内を牽引している。加えて、児童生徒へのオンライン学習の導入や教員向け研修へのZOOMの利活用、更には教育委員会のオンライン開催等できることから進めている。

市長

各委員からの意見や感想はすべての説明後にまとめて願います。

次に、議事2にある「(2) 今後の重要な教育行政課題について」に関して、今後の学校園の在り方について、2月の会議で地域や保護者と懇談する機会を設けられないかお願いしていたが、コロナ禍での現在の状況について教育長より説明をお願いしたい。

教育長

前回の会議において、市長から提案のあった懇談会については、新型コロナウイルス感染症の拡大で会議や行事が中止になり、未だ開催できていない状況。10月になり県内でも感染防止策をとりながら様々な規制を緩和する動きが出ていることを受けて、11月から来年1月にかけて7中学校区で開催したいと考えている。また、今回は感染防止のため保護者や地域の役員など対象を絞った案内を想定している。内容は、現在、国や玉野市が進めている教育施策や教育環境の整備についての現状と課題

を紹介し、それに対する意見や地域で抱える課題について聞くことを考えている。今回は第1回の懇談会なので、テーマは限定せず様々な意見をいただき、その意見を基にテーマを絞って第2回に繋げていきたい。

市長 教育長からの説明では、コロナ禍で予定どおりには進んでいないが、11月から感染防止策を講じながら7中学校区で開催するとの内容であるが、懇談会は教育委員が行うのか。それとも教育委員会が行うのか。

教育長 懇談会の実施主体は教育委員会事務局になる。もちろん、教育委員にも案内する。

市長 第1回なので、まずは地域の学校に対する色々な思いや意見等を聞いて、第2回に繋げていきたいという内容であった。全体を通じた意見等について各委員からお願いしたい。

野田委員 3月2日からの学校の休業要請への対応については、未だに疑問を持っている。再開後のコロナ禍における教育活動では、WITH コロナへの取組として一定の距離を保ちながら授業を行っていると思うが、子ども同士や先生と子どもなどの精神的な距離が離れないように児童生徒への配慮をお願いしたい。

市長 緊急事態宣言への対応については、色々と検証しているところであるが、満員電車が止まらない中、なぜ小中高校、幼稚園は休校せざるを得なかったのか等を市長会を通じて申し入れすべき所はしていきたいと考えている。

学校教育課長 子どもと教員の精神的な距離については、学校指導要領にも主体的・対話的で深い学びを目指す方針が示されており、答えのない課題に対しては、話し合いの中から最適な答えを見つけていく教育活動を推進していることから距離は近くなると認識している。学習端末の活用は、その場に一緒に居ない時でも話し合いができる環境整備の1つであり、それぞれの関係性は深まるものと考えている。

妹尾委員 臨時休業の関係で学校の授業数が減り、他の感染拡大地域では未だに授業数が回復していない中、玉野では市教委の早めの決断で授業数を確保して、既に授業日数は回復している。早い決断や柔軟な対応はこれからもその都度お願いしたい。

オンライン化についても先生方は勉強することが増えて大変になるが、教育委員会で作成したガイドブック等を活用した研修が進んでおり、ロードマップどおり行けば、他市よりも色んな事が進み、それを他市の先生方に還元できることにもつながるため期待している。また、教育委員会のオンライン開催などは今後も積極的に取り入れて欲しい。

懇談会については、大規模校・小規模校、西と東・中心部など地域により課題が異なるため、それぞれの会場でしっかり話し合いをすること、来たい人には来てもらえるための会場確保等なるべく間口を広げる努力、更にオンラインの希望があれば対応の検討、その後のパブリックコメントについても回答期間を長めに設定するなど、若い人から意見が出やすい環境としてTwitter等SNSの活用の検討もお願いしたい。

就学前教育保育の対応として、園庭解放は12月末まで中止しているが、一時保育はどのような対応をしているのか。それから、来月の宇野港開港90周年イベントについて園児の鼓隊や中高生の吹奏楽等どのようになるのか教えて欲しい。

市長 宇野港開港イベントは、岡山県で計画しているところで、知る範囲では宇野港に

STU 船が来港する予定で、知事など限られた人数による式典を行うこと、式典後の船内の見学者を募ることは聞いている。残念ながら鼓隊や吹奏楽はコロナの感染拡大に配慮して行わないと聞いている。新しい情報が入ったら委員の皆さんにお知らせする。

就学前教育課長

保育園での一時預かりは、県内で感染者が拡大していた時期には、県外からの受け入れは断っていた。感染者が落ち着いた後は、里帰り出産の希望に対応するため、県内に来てから一定期間の健康状態をみて、変化がない場合には受け入れる対応をとっている。幼稚園の一時預かりは、基本的に在園児のみ利用できるため、従来と変わらず利用できている。

加藤委員

GIGA スクール構想の実現について、他市に先行して進める以上は GIGA スクールで学べること、顔と顔を合わせて対面で学ぶべきことを見極めながら、児童生徒一人ひとりの状況把握、子ども達の勉強や生活、思いに気づけるようなその辺りまで研修等を活用して取組むことを望む。また、タブレット PC は保護者と先生の連絡手段においても紙からオンラインへ転換するよい機会になると考えている。

社会教育について、コロナ禍で図書館や公民館が休館を余儀なくされて市民が学ぶ場所が使えなくなった。子ども達と同じように大人にも知識欲はあるため、講座やイベントの再開などについては、できるだけ多くの情報発信をお願いしたい。

市立商工高校について、今年の就職状況はいつ頃わかるか。

学校教育課長

就職活動が例年に比べて 1 カ月半ほど遅れているため、これからになる。

加藤委員

懇談会について、子どもの数が減るのは玉野に限ったことではなく、子ども達が、今後どのような教育を受けることが望ましいのか、地域で一緒に考える機会になる懇談会になることを望む。

宇野港開港 90 周年について、コロナ禍の新しいイベントへの取組として、リモートを活用した式典への参画など県への働きかけについて検討をお願いしたい。

太宰委員

4 月から教育委員になり、まだまだ把握できていない状況にあるが、今までボランティアや保護者として学校に携わってきた経験を活かしながら、懇談会での意見をどのように活かしていけるのか考えながら参加したい。

市長

11 月から懇談会をスタートする話だが、コロナ禍でどのような人選でどのように開催するのか、一方で多くの方から意見をもらいたい側面もあり、その辺り教育委員会事務局においてリモートも含めて手法を検討して欲しい。また、これからの各地域における学校の在り方について、随時募集等で意見を募ることは必要であると考えている。

更に、懇談会が一過性で終わらないように、学校が地域の拠点として長年はたしてきた役割など、幅広い内容についても議論できるようにしっかり検証を行い、2 回目以降に繋げるようお願いしておく。

緊急事態宣言が発出されて、子ども達の他に大人も外出自粛になった。つまりサロンや図書館など趣味を楽しむにしている人が行き場を失った。それらの影響もあり、全国的に後期高齢者の方への特殊詐欺が全国で増加し、介護状態の方が増えて、認知症の方も増えた。新しい生活様式の中で、外出することを考えたときには図書館や各

地域のセンター・公民館の役割について子ども達も大人も生涯学習として学べる環境を整えることも教育委員会として検討することをお願いしておく。

本日は、前段はコロナ禍の教育現場の対応の話であった。後段は、懇談会の開催状況についての話として、11月から7中学校区で開催する報告を教育長から受けた。

私の思いは、統廃合は別にして各地域の学校の在り方について積極的に現場に行き意見交換する中で、まずは玉野でこれから生まれ育っていく子ども達の環境をどのように良くしていくのか、それから、玉野で暮らしている方々が安心して生涯学習を展開できるように、各教育委員におかれては、それぞれの見地からしっかり考えていただきたい。

了